

菰野珠算学園だより

10月号

2025年10月発行

「意欲・関心」「集中力」を持つことが大切

夏休み期間中の子どもたちの頑張りもあり、本学園では、先月(9月)に実施された珠算検定試験において、段位～6級まで30名を超える多くの子どもたちが受験をしました。中には、惜しくもあと10点、20点で合格を逃した子もいましたが、次回の受験に向け、あきらめずに粘り強く、合格をめざして練習に励んでほしいと思います。

夏休み期間中に4～5の練習帳をしていた子どもたちが上達し、今回は6級の受験をたくさんしてくれました。5の練習帳から6級へと進級した子どもたちの中には、毎回かけ算、わり算、見取り算の3科目をやり、慣れてきたら、3科目(1科目7分)について時間をはかり、その後、間違った問題を直してから帰る子も出てきています。「算数ホップ(そろばんとの併用学習教材)」についても、学校の宿題が終わってから、毎日1ページをやってから帰る子も出てきています。低学年の子どもたちの中には、「もうちょっとやる」と言って進めていく子もいます。

現在、通塾中の子どもたちの中には、半年もたたないうちに、4級の認定試験に取り組んでいる子もいます。週6日、ほとんど休まず教室に通ってきて、1～5の練習帳は毎回2ページ程度を進めていました。継続して毎日通っているため、練習帳段階では、ほとんどつまずくこともなく、これまで順調に進級してきています。

珠算練習は、毎日継続して続けることが上達の近道です。「意欲・関心」「集中力」を持って取り組んでいる子は、どんどん先へと進んでいきます。小中学校の通知表の観点でも、「主体的に学習に取り組む態度」(以前は、関心・意欲・態度とされていたものが2020年度からの学習指導要領改訂により改められました)が重要視されており、珠算においても「意欲・関心」や「集中力」がとても大切だと感じています。特に 1～5の練習帳をやっている間は、位取りや繰り上がり、繰り下がりなどで覚えることが多く、毎日そろばんを使って計算をしていくうちに、自然とその仕組みが身に付いていきます。通塾頻度が少なかったり、長期間珠算活動から遠ざかってしまったりすると、これまでに身に付けたそろばんを使った計算の仕組みを忘れてしまい、なかなか上達していかないように思います。

また、私(おじいちゃん先生)も経験があるのですが、段位～3級を練習している子については、教室に通う日数が少ないと、そろばんをはじく感覚が鈍ってしまい、珠算の仕組みはわかっているものの、速くそろばんの珠をはじくことができないようになり、なかなか問題数をこなすことができない、というジレンマに陥ってしまっているようです。

小学校は6限授業が多くなり、なかなか放課後毎日、珠算教室に通うことは気持ちがおっくうになりがちですが、たとえ15分間でもいいので、そろばんの珠に触れることが上達への近道だと考えています。18時までに教室に来ていただければ、練習をしていただけますので、他の習い事との兼ね合いもありますが、ぜひ時間を作って、珠算教室に来ていただければと思います。

毎月のカレンダーを本学園ホームページに掲載します。

8月下旬に実施したアンケートを受け、11月から毎月のカレンダーを本学園ホームページに掲載するようにします。

「菰野珠算学園@公式LINE」→「WEBへ」→「お知らせ」を見ていただくと、確認ができるようになっていますので、活用してください。QRコードも添付しておきますので、ご覧ください。「菰野珠算学園@公式LINE」に登録されていない方は、ホームページ最後部の「LINE友だち追加」から登録をお願いします。本学園のLINE連絡は、契約時において人数の制限があり、災害緊急時(台風や大雨等)の連絡を優先したく、このような扱いとさせていただきます。ご了承ください。



HP掲載のQRコード
は省略します。